

〔執筆者紹介〕（掲載順）

豊島 良太（てしま りょうた） 山陰労災病院長

田中 健一（たなか けんいち） 鳥取県社会福祉協議会福祉サービス

運営適正化委員会局長

田中 泉（たなか いずみ） 鳥取県立公文書館専門評価員

池本 美緒（いけもと みお） 鳥取県立公文書館専門員

伊藤 康（いとう やすし） 鳥取県立公文書館専門員

末次 啓子（すえつぐ けいこ） 鳥取県立公文書館専門員

〔編集後記〕

「伊藤君よ、紀要を出せ。私も二本や三本ぐらい書くから」という安藤文雄先生の助言を受けて、当館研究紀要の刊行は始まった。平成一六年度のことである。あれからおよそ一七年、この度第一一号を刊行する運びとなった。変わったことは、今号を安藤文雄先生の墓前にお供えしなければならぬことである。先生は、令和三年九月三日にご逝去された。行年八一歳。教えを乞うことができなくなつて、本当に残念である。先生は、三代目の館長として公文書館の充実化に努められ、定年退職後は、専門研究員として一〇年間当館でご勤務いただいた。先生のご恩に報いるためにも、一層の努力をしていきたいと思つている。

今号は、豊島良太氏の投稿原稿、田中健一前館長の依頼原稿を得て、充実した内容の号となった。豊島原稿は、「米子医学専門学校設立経緯」（『鳥取県立博物館研究報告』第58号）に続くもので、鳥大医学部長、学長を歴任された氏のライフワークの集大成となる論考である。田中（健）原稿は、公文書館長着任時から始まった「館の在り方検討」から五年間の動きをまとめたものである。検討会議の設置、新条例の制定、市町村との共同会議の設立・運営など最前線で活動された、その軌跡である。田中（泉）原稿は、この過程で新規事業として取り組まれた再選別に係る事例報告で、類縁機関には参考にしていただけのもので考えている。

池本原稿は、鳥取県の写真師の先駆者とされる喜多村勘四郎父子の実態解明を緻密に追跡したものである。さらなる事例を積み上げて次への論考につなげてほしい。（伊藤ヤ）

鳥取県立公文書館研究紀要 第一一号

令和四（二〇二二）年三月三十一日 発行

編集・発行 鳥取県立公文書館

〒六八〇一〇〇一七

鳥取市尚徳町一〇一

TEL〇八五七―二六―八二六〇

印刷 有限会社 蛍光社